

第 40 回 評議員会議事録 (H28.11.12)

評議員 (近畿) 中田 敦也

評議員 (中国) 黒田 咲穂

※下記の記載内容については、当日の配布資料及び説明者等の発言をメモ・記憶し、報告したものであり、全ての数字等の正確性が保証されているわけではないことを予め記す。

【日時、場所】

- ・日時：平成 28 年 11 月 12 日 (土) 15:15～18:15
- ・場所：大手町サンスカイルーム 27 階 A 室

73 名出席、42 通の委任状で成立

① 議題等

◆加盟証書 授与式

- 1 浅草ユネスコ協会
- 2 香取・佐原ユネスコ協会

◆議題

- 1 第 39 回評議員会議事要録 (案) の承認
- 2 2016 年 6 月～11 月の事業報告及び今後の日程 (案)
- 3 組織・活動委員会からの報告
 - ・70 周年ビジョン部会
 - ・組織運営部会
 - ・青年活動部会
- 4 遺贈について
- 5 その他
 - ・文部科学省「土曜学習応援団」について
 - ・書き損じハガキキャンペーンについて
 - ・「個人会員 世話人会によるイベント」について
- 6 役員・評議員情報交換

② 会長挨拶 (松田会長)

- ・これから寒いから風邪対策をしっかりと！衣服の調整をしよう！今年も元気にやってください。
- ・理事会も活発な意見交換がなされた。評議員会においても積極的に質問があれば手を挙

げ、議論に参加してほしい

③ 加盟証書授与式

浅草ユネスコ協会、杉本会長（浅草）

香取・佐原ユネスコ協会 木口会長（香取・佐原）

→上記会長に対し、松田会長より加盟証書授与

・浅草 杉本会長挨拶

浅草は古い文化が残るまち。三社祭が浅草神社のお祭りだと知らない人が多いなど、実際に住んでいる人でも知らないことが多い。浅草の文化を伝えていきたい。

私は浅草神社を題材とした小説を書いている。昔話なども子どもたちへ伝えていきたい。

→都ユ連事務局よりお祝いの言葉

・香取佐原 木内会長

文化・歴史の残るまち。佐原祭りは無形文化財にも指定された。みなさんの支援があり協会設立ができた。地域の発展、平和に貢献できるのがうれしい、活動を頑張りたい。

→柏ユネスコ協会会長からお祝いの言葉。

商工会議所をベースとした協会で珍しいケース。文化・歴史の宝庫であり、伊能忠敬の日本地図を記憶遺産にしようという動きもある。頑張ってもらいたい。

④ 大橋副会長就任挨拶

(松田会長より)

今年6月の理事会でANAホールディングス相談役の大橋洋治氏が日本ユネスコ協会連盟の副会長として就任。

(大橋副会長より)

沖縄の全国大会で、日本ユネスコ協会連盟の理念に共感した。勉強させてもらい、皆さんとともに民間ユネスコ運動に汗を流して頑張りたいと思っている。

⑤ 39回評議員会議事要録（案）の承認

→ 承認

⑥ 2016年6月～11月の事業報告及び今後の日程

事業報告資料に基づき川上事務局長より報告。

【民間ユネスコ運動の普及・実践】

・第72回日本ユネスコ運動全国大会 in 沖縄 2016/6/25（土）～26（日）

参加者：約600名（一般市民も合わせて）

・2016年度ブロック別研究会

5か所が終了。

- ・2016年度民間ユネスコ運動の日～夏のキャンペーン
全国約120のユネスコ協会が「平和の鐘を鳴らそう」をはじめ、様々な活動を展開。
- ・2016年度「ユネスコESDパスポート」
今年度は38ユ協参加。9月10日に説明会が開催された。
- ・「青少年ユネスコ活動助成」採択決定
73件の申請のうち71件採択。昨年比12件増。助成先は9月のユ協便を参照。
- ・第48回ユネスコ子どもキャンプ
8月8日～11日で千葉県旭市会場キャンプ場にて開催。こども109名、スタッフ50名。来年度は和歌山県串本町で開催予定。
- ・サイエンススクール
- ・青年ユネスコ研修補助制度
夏には2名が本制度を利用して、研修受講。松山ユ協の渡部さん、白石さんが第34回開発教育全国研究集会に参加。
- ・守ろう地球のたからもの育樹事業
- ・第12回三菱アジア子供絵日記フェスタ
- ・日・中・韓青年文化フェスティバル
2016年7月25日～27日、韓国ソウル、UNESCOホールにて開催。高校生12名、教員3名、事務局員1名参加。
- ・第3回カンボジア・スタディツアー
2016年8月3日～12日まで全国から選ばれた10名の高校生がカンボジアツアーに参加（坂口理事が団長）。今後、フェスタ等で報告を予定。
- ・国際協力フェスタ出展
全国3か所のフェスタに地域の青年会員による実行委員会が中心になり、世界寺子屋運動を紹介。来年2月には、大阪のワン・ワールド・フェスティバルに出展予定。
①グローバルフェスタ JAPAN2016（10.1～2 東京）
②ワールド・コラボ・フェスタ（10.22 名古屋）
- ・寺子屋リーフレット・制作プロジェクト
- ・第23回AFUCA執行委員会

【東日本大震災子ども支援募金、熊本地震子ども支援募金】

標記に係る奨学金や募金の状況について説明。

【世界寺子屋運動・世界遺産・未来遺産ほか】

- ・アフガニスタン、ネパール、アンコール寺子屋のそれぞれのプロジェクトについて説明。
- ・世界遺産年俵2017 12月中旬発行予定。
- ・プロジェクト未来遺産2016
書類選考を通過した10プロジェクトについて現地調査を実施中。現地調査を経て12

月 7 日開催の未来遺産委員会で「プロジェクト未来遺産 2016」を決定予定。

【普及広報関連】

- ・活動レポート 2015 の発行
100 部を上限にしたユネスコ協会向け配布は終了。
- ・機関誌「ユネスコ」10 月号の発行

⑦ 70 周年ビジョン部会からの報告

加藤副会長から報告

- ・9 月 10 日理事会以降 4 回集まって話し合った。
- ・川上事務局長から、重点目標 1～5 とそれに係る 5 年間のアクションプラン、今後に向けた中期事業計画の骨子について説明。
- ・今後、1 月の機関誌にも記載し、パブリック期間を設ける。

(玉川大学 小林さん)

- ・重点目標 2 について、「グローバル市民」、グローバルな視野をもった次世代をつくっていく必要がある。このアクションプランが不明確。もう少し具体的にしていけるべき。
- 鈴木副理事長より
より具体的でわかりやすい言葉で中期事業計画に落としこんでいく予定。

(芦屋ユ協 城井さん)

- ・重点目標について教育に重点が置かれていると感じる。科学、文化が少ないのではないかと。
- 鈴木副理事長より
教育の比重は高いが、その教育の中身、コンテンツは文化や科学にも触れなければならない。

(岐阜ユ協 平井さん)

- ・日本ユネスコ協会連盟は本部ではない。各地ユ協の会長も何ができるか、それを考えるべき。
- 川上事務局長より
各地の現況報告等を基づき各地の課題を分析し、まだ共有はできていないが資料に落とし込んでいる。運動として 70 周年を機会とし、一人ひとりが燃え上がれるようなビジョンにしていきたい。

(静岡ユ協 ヨシムラさん)

- ・ビジョンは素晴らしいものだと感じている。主体的という言葉が気になる。主体性がないのではないかと。

→加藤副会長

貴重な意見。検討する。

(松山ユ協 横田理事)

・世界寺子屋運動の流れのなかで 奨学金については慎重に検討しなければならないという議論が過去にあったが、この文言（奨学金）がでた経緯や検討の結果は？

→川上事務局長

検討途中。

⑧ 組織運営部会からの報告

林副会長より報告あり。

⑨ 青年活動部会からの報告

松波理事より報告

1 第48回ユネスコ子どもキャンプ

・リーダー育成という視点で捉え、2年連続で千葉県で実施。2年目は、最初の年に比べて準備が早めに来た。2年やったことの評価をこれからしていく。次年度は和歌山県串本町で開催予定。

2 国際協力系フェスタへの出展について

・ユネスコスクールの生徒などUNESCOや国際協力等に関心がある非会員層にアプローチするモデルとして、全国3か所の国際協力フェスタに出展。

・「グローバルフェスタ JAPAN」(東京) 2016年10月1日～2日

関東の青年会員たちを中心に実行委員会を組織。カンボジアの寺子屋で学ぶ子供たちに送るノートづくりを実施。2日間で200冊を超える手作りノートが完成。

・「ワールド・コラボ・フェスタ」(名古屋) 2016年10月22日

中部地方の青年会員たちを中心に実行委員会を組織。国旗フェイスペイント体験やカンボジア商品販売、会場全体でお行われたスタンプラリーや「コラボ・ユース企画」への参画を通じて、活動を発信した。

・「ワン・ワールド・フェスティバル」(大阪) 2017年2月4～5(予定)

近畿の青年会員を中心に実行委員を組織。パネル展示のほか、スタディツアー参加経験者を中心にしたワークショップを実施予定。

3 2016年度青少年ユネスコ活動助成

73件(69ユ協)の助成金申請があり(昨年比で12件増加)、5月16日開催の審査会で71件の助成が決定。助成先は9月ユ協便参照。

4 青年ユネスコ外部研修制度

松山ユネスコ協会より2名が本制度を利用し、第34回開発教育全国研究集会へ参加。

⑩ 遺贈について

・間瀬理事より資料(パンフ)に基づき説明。

・遺贈に興味のある方から連絡をいただくことを目的として作成。遺贈をどこに託すか、どこを選ぶ

かが重要。

- ・近くに興味のありそうな人がいたら協会に連絡を。HPにも遺贈のコーナー作成済み。

⑪ その他

- ・文部科学省「土曜学習応援団」について
川上事務局長より説明。文科省より協力依頼あり。地域の教育委員会が窓口になる。詳細は、文科省に確認のうえ改めて報告する。
- ・書き損じハガキキャンペーンについて
海外事業部 関口部長より
電通の協力により、回収量が約2倍にアップ。
ハガキ：90,000枚
元ハガキ：460,000枚
計 550,000枚
- ・「個人会員 世話人会によるイベント」について

◆所感

大橋副会長の就任や、青年活動部会の動き（情報交換会も含めて）、個人会員によるイベントなど次の活動を担う世代を確保することに向けた動きが活発化してきている。青年としては、青年の活動をアピールするためにも青年の発表の場が用意されている仙台全国大会の重要性を感じた。

70周年のビジョンに係る議論については、青年、大人関係なくユネスコ会員全体が思い入れを持って、またそれを生かして活動できるような、活動の後押しになるような内容になることが望ましいと思った。地域によって様々な課題をもちながら様々な活動をしている現在の状況において、上記ビジョンは汎用性に少し欠けるのではと思った。（中田）

仙台の全国大会は、大人に青年のことを理解してもらうことはもちろん、青年が大人のことを理解するとともに、これからの青年ユネスコ活動を考えていくためにも非常に大事な場であると思う。より多くの青年が参加できるよう、費用面等で何らかのサポートが用意できれば良いなと思った。（黒田）